

かおり風景100選

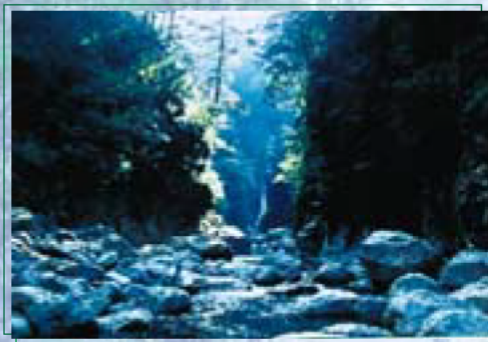
日本には、私たちにやすらぎや元気を与えてくれるすばらしい景色がたくさんあります。そんな景色を全体で感じるとき、そこには必ずすばらしいかおりがあります。

環境省は愛されるかおり風景が、これからも続くようにとの願いを込め「かおり風景100選」を選びました。三重県から3つの風景が選ばれました。



伊勢神宮参道千年の杜

2000年余の歴史を有する内宮参道は、神宮スギやヒノキの常緑樹の他、自生の木々のかおりにつつまれ、内宮の鳥居前800mの参道沿いは、お茶、お菓子、うどん等のかおりがします。



大台ヶ原のブナの原生林

宮川の最上流部にある原生林にはブナ等が生育しており、木々のかおりが、また、多くの滝があり水のかおりが感じられます。県、関係市町村、県民と協働で「宮川流域ルネッサンス事業」を展開し、清流を守る運動を行っています。



答志島和具浦漁港の塩ワカメづくり

2月～4月頃、数十基の塩ワカメ作りの釜が並び、潮のかおりが港全体にたちこめます。伊勢湾最大の島である答志島和具港特有の風景です。国立公園内にあり、すぐれた自然が残る島です。

残したい日本の音風景100選

日常の何げない音に耳を澄ますことで、自分の音風景を発見する。それを守り、それを将来に残していこうという意識が、身のまわりの自然環境の保全、文化の継承、さらには地域づくりへとつながっていきます。「伊勢志摩の海女の磯笛」は「残したい日本の音風景100選」に選ばれています。



伊勢志摩の海女の磯笛

海女は潜水して海面に浮上したとき、口笛に似た「ピューピュー」という吐息をします。一種の呼吸調整方法ですが、これが「海女の磯笛」です。どこか物悲しいこの音色は、潮騒の中で魅惑的に響きます。